

一

三

の中から二題を選択して解答しなさい。

選択しない問題の解答番号には、絶対にマークをしないでください。

一

次の文章は、『浜松中納言物語』の一節である。夢のお告げで自分の父親が唐の皇子に生まれ変わっていると知った中納言は遣唐使として唐に渡り、都を離れて住んでいたその皇子と会うことができたが、その際に母である后に心を奪われる。その後、后にうりふたつの女(実は后)と偶然会って一夜の契りを結ぶが、女は姿をくらましてしまい、中納言は再会を切望している。以下を読み、後の設問に答えなさい。

后をこそはしたなめたてまつり、山深くこもりゐ給ひしかど、皇子の御ありさまの、かしこくめでたくて、世には消たれ給ふべくもあらず、帝

もかぎりなきものに思ひ聞こえ給へば、かやうの御ありきのほどなど、もてかしづかれ給ふさまは、いとことなり。中納言の、かかるにもまぎれず

おぼさるれば、いと涼しき水のほとりに、頬杖をつきて、つくづくながめ入りたるに、かたちの似るものなく清げなるを、人々めでたしと見るに、

皇子も目をつけて御覧じて、ゐ給へるところに立ち寄り給ひて、

恋しさをみそげど神のうけねばや心のうちの涼しげもなき

ほほゑみてのたまはする、いかでか心得給へるわが心のうちぞと、恐ろしきまで心はづかしければ、

みそぎ川河瀬の神にことふれでまだこそ知ら X 恋の心は

七月七日に、内裏に、西王母、東方朔などいひける人の、今日は行きあひける承華殿といふところにて、帝、文作り遊びし給ふに、中納言召されて

参り給へり。この帝、御かたち、心なまめきて、遊びの道に心を入れ、強くさかしきかたは後れてやものし給ひけむ、一の大匠、后たちに、よろづ劣

り首垂れて、さばかり御心に入れておはせる河陽県の後を、あと絶えてものし給ふは、強きところぞおはせざる Y と、中納言は推し量り給ふ。

暮れかかるほどの夕風、涼しう吹きて、月さし出でておもしろきに、帝、空をいたくながめ給ひつつ、一天にあらば比翼の鳥となり、地にあらば連理

の枝とならむと、おしかへしつゝ誦じ給へる御けしき、後の御ことを思ひ出で給へるなるべしと、中納言心苦しう見たてまつるに、酒杯参りてさし

給はするを賜はりて、

かはしけむ契りの枝のかひぞなき遠山鳥のよそに見ゆれば

と奏したるに、心得てけり、とおぼすに、え堪へずしほたれ給ひて、

契りけむ昔の空にたとへても尽きせぬものはわが^B世とぞ思ふ

かやうに、いみじうもてはやされて過ぐせど、心のうちは、夢のやうなりしことを心にかけて、さりとて、わが^C世の人ならましければ、いみじくつ
つむことありとも、いとかくはあと絶えざらまし。女もまことに会釈なく、心憂くもありける^D世の人かなと、せめて思ひおとせど、「雲居のほかの
人の契りは」と、うち泣きて答へしけはひありさまは、すべて^E世々を経^ふとも忘るべうもあらず。^⑥いみじう恋しうわりなうなりたるふるさとも、この
人に逢^あひ見て歸らむことは、えあるまじう思ひわたるほどに、秋も深くなりゆく。

〔浜松中納言物語〕より

注1 はしたなめたてまつり：軽んじ申し上げる。唐の皇帝は皇子の母である后を、都から離れた河陽県に籠もったままにさせている。

注2 河瀬の神にことふれで：川の神様に願いの言葉が届かないので。

注3 西王母、東方朔などいひける人の、今日は行きあひける承華殿：伝説の山である崑崙山^{こんろん}に住む神女の西王母が、漢の武帝に仕えた東方朔と七
月七日に出会ったという話を踏まえる。武帝は東方朔を介して西王母を都へ招き、不老不死の仙桃を求めたという。

注4 遠山鳥：山鳥は雌雄が夜には谷を隔てて別々に寝るとされ、そのため相手を「遠山鳥」と恋しがると考えられていた。

注5 会釈なく：思いやりや心づかいがない。

注6 雲居のほかの人の契りは：以前、中納言が女(后)と会った際の、女の歌の下句。

1 問一 二重傍線部 a～e の助詞「の」の中で、一つだけ用法の異なるものがあるが、それはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番

号をマークしなさい。

- ① a
② b
③ c
④ d
⑤ e

2

問二 文中では「世」という語がさまざまな意味で用いられている。□で囲んだA～Eの「世」という語のうち、「国」の意味で用いられているのはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① A

② E

③ A・D

④ B・E

⑤ C・D

3

問三 傍線部①「かやうの御ありきのほどなど、もてかしづかれ給ふさまは、いとことなり」の解釈として最も適切なものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① こうして皇子が帝のお散歩に従う場合、中納言が皇子をお世話していらっしゃる様子は、格別な感じである。

② こんなふうな行幸の際に、帝が皇子から丁重にお伝えされていらっしゃる様子は、とても素晴らしい。

③ こういった皇子のお出かけの折に、中納言を帝がちやほやしていらっしゃる様子は、他の人とは異なっている。

④ このような帝のお出歩きのと きなどに、皇子が帝から大切にお世話されていらっしゃる様子は、たいそう特別である。

⑤ こんな外出のときでさえ、帝が皇子を大事に守り育てていらっしゃる様子は、ひどく普通とは違っている。

4

問四 傍線部②「いかでか心得給へるわが心のうちぞと、恐ろしきまで心はづかしければ」の解釈として最も適切なものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 何とかして私の心の内を理解していただきたいと、とてつもなく気持ちがはやって

② 何ともしつかりご自分の心構えをなさっているものだと、はなはだしく気が引けて

③ どうして私の心の中がおわかりなのかと、怖く思われるほど気後れがして

④ どうやってご自分の気持ちを納得させていらっしゃるのかと、ひどく感心して

⑤ なぜか人の心中を詠む和歌のたしなみがおありだと、恐ろしいほど立派だと思えて

5

問五

空欄

X

と

Y

に入る語の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

①

X 〓 ず

Y 〓 べき

②

X 〓 ざり

Y 〓 べけれ

③

X 〓 ぬ

Y 〓 べし

④

X 〓 ぬれ

Y 〓 べけれ

⑤

X 〓 ね

Y 〓 べき

6

問六

傍線部③「遊びの道に心を入れ、強くさかしきかたは後れてやものし給ひけむ」の解釈として最も適切なものはどれか。次の中から一つ選

び、その番号をマークしなさい。

①

管弦の道に打ち込んで、強かったり賢明であつたという点は劣つていらつしやつたのだろうか。

②

宴席を設けるなど交際を大切にして、強く自分を主張するということは遠慮していらつしやるのだろうか。

③

見物の旅に出かけてばかりいて、政治的なことには気が進まないようであつた。

④

漢詩の会を催すなど、文学には熱心だが、武芸の方面はなかなか上達なさらないのであろうか。

⑤

恋愛に心を向けている方で、強く猛々しいという部分は人よりおありではなかったらしい。

7

問七

傍線部④「天にあらば比翼の鳥となり、地にあらば連理の枝とならむ」とは、愛する人にいつまでも一緒にいることを誓う、唐詩「長恨歌」の

一節である。この「長恨歌」の収録されている作品はどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

①

伊勢物語

②

白氏文集

③

懷風藻

④

源氏物語

⑤

本朝文粹

8

問八 波線部ア～オの動作の主体は、四つが帝、一つだけが中納言である。主体が中納言であるものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ア
② イ
③ ウ
④ エ
⑤ オ

9

問九 傍線部⑤「いみじくつつむことありとも、いとかくはあと絶えざらまし」とあるが、中納言は女(后)に対してどのように考えようとしているのか。後続の文の表現「せめて思ひおとせど」を参考に、説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① たいそう慎ましやかな人であっても、これほど何も言つてこないとはどういうことなのか、考えられない。
② ひどく人目をはばかることがあったとしても、こんなふうには消息を絶つてしまうことはないだろうに、ひどい人だ。
③ どんなに恥ずかしいと思つたとしても、ずっと後々まで関係が絶えないでほしい。
④ 嚴重に周囲を取り囲まれていたとしても、こうやって便り続けることはできるだろう。
⑤ どれほど世間に隠すことがあつても、こうして跡を絶つことができるだろうか、いやできない。

10

問十 傍線部⑥「いみじう恋しうわりなうなりたるふるさと、この人に逢ひ見で帰らむことは、えあるまじう思ひわたる」とは、どのようなことを言っているのか。説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 恋しい思いがどうしようもないほどなので、女に会ったら帰ることなどあり得ないと思ひ詰めているということ。
② 何とも仕方なく恋しいと思うようになった唐の国に、皇子に会うまでは帰らないと思つて出かけてきたということ。
③ とても恋しくて耐えられなくなっている日本にも、女に会わずに帰ることはできないと思ひ続けているということ。
④ たいそう恋しく、道理では説明できない故郷への思いだが、皇子に会つて帰れるとは思つていなかったということ。
⑤ ひどく恋しくて仕方ない山奥の里を、女に会うために訪れたとしたら都には帰れないと思つているということ。

次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

されば、下野国日光山しもつげのふもとに磯崎殿とて侍一人ありけるが、頼朝の御時、本領相違注1して一両年有りけり。安堵あんどのために在鎌倉しけり。留守の女房、万よろづの営みをし、ある時は鏡を代替しろがへ、衣装をこしらへなどして上らせ、その家の神や仏に、「今一度、本領安堵させてたび給へ」と、明け暮れ祈誓しきりにしけるによつてやらん、やがて、本領安堵して下野に下りけるに、男の心の拙さは別の女房を連れて下り、堀外に家を造り、新殿あたらしどのと名付け、置きけり。

家の女房思ふやう、「あら、腹立ちの事や。我、万の営みをして在鎌倉を届けたる甲斐かひもなく、^①かかる振る舞ひの情けなき事よ」と明け暮れ恨みをかこちけるほどに、男、申しけるやうは、「高きも卑しきもかやうの事は我一人に限らず。昔語りにも、まづ、源氏の大將は、紫の縁ゆかりを尋ね、桐壺きりつぼの夕べの煙速やかに、帚木はきぎの夜の言の葉に夕顔の露の思ひをなして、紅葉もみぢ賀の匂ひ深く、世を空蟬うつせみの音を聞き、賢木葉さかきの挿して後世をば願はずして花散里はなちりに心を留め、生死流浪の須磨の浦を出でかね、^{注2}四智円明の明石あかしの浦に滯標みぞくし幾ばく心を苦しめ、また、^②在原業平は三千七百三十四人とかや承り及ぶぞかし。^③身や姿こそ変はるとも心は劣り候ふべきか。よしよし、赦し候へ。かの人は鎌倉にて自らに情けを深く懸けし人なりければ、打ち捨て難くして連れ奉りける。我が身の遣る方なき時は情けを受け、また本づきたる時は捨つる事は男の本意と覚え。されば、ある文に曰く、^{注3}『貧賤ひんせんの知音ちいんを忘る事なかれ。糟糠さうかうの妻めを堂に返すな』と申す事あり。『我が身の計会けいゑの時の女房と舅しゅうとを捨つるな』と承り候ふ。されば、紀有常ありつねの女は如き思ひを押し込めし胸むねの埋み火うづにて、^ア提子ていしの水の沸き返りけるとかや。

A つれなくも提子の水の沸き返り胸の煙は立つや立たずや

と詠じけるも夢となりて候ふ。何事もただ、我に赦し給へ」とて手を擦りけれども、^④女の心のはかなさは、さらに打ち置く心の暇もなく、かの女房思ふやう、「さもあれ、鎌倉より下りたる者の顔は縦長か横長か、一目見ばや」と常々思ひけるところに、ある時、殿は用の事ありて鎌倉に上り給ひし留守に、蔵一太夫たふと申す猿楽いのその所に着きて礼に來たりける。人を出だして言はするやうは、「殿は鎌倉へ上り候ふ。やがて、御下りあるべし。しばらく逗留とらひゆうし給へ」とて酒など飲ませて帰しける。

さて、やがて、猿楽の宿に人を遣はして「ちと替おどすべき子あり。恐ろしき鬼の面一つ、半切はんぎりに赤頭あかがしら添へて貸し給へ」と借りければ、猿楽思ふやう、「女房の借り物には似合はぬ物かな」と思ひけれども「否いな」と申すべきにあらざれば、貸し参らせける。やがてその日も暮れければ、かの半切取つて付け、赤頭あかづ被り、打杖うちづえ執つて、我が家を忍び出で、ただ一人、外の女房のところへ忍びやかに門を開けて内に入り、ややしばらくためらひけり。はや人氣も静まり、小夜更さよふけ方にもなりぬるに、窓よりのぞきてみれば、年十七八の女房の、翡翠ひすいの髪ざし揺り乱し、額ひたいの絶え間よりほのかに見ゆる眉墨

いづくしく、紅の小袖脱ぎかけて、油火ほのぼのと立てさせ、草子うち見てゐながら、空薫きして匂ひ、顔ばせ世の常ならず。「姨捨山に清見関を並べ、柳が枝に桜の花を咲かせ、梅の匂ひを匂はせても、なほ飽かずなり。姿物によくよく譬ふれば漢の武帝の妃、または楊貴妃、李夫人もこれにはいかで優るべき。いかなる心なき人なりとも、この姿を見るならば、静心なき恋とも憧れつべき人なり。それにわが影を並ぶれば、年半ばも老け過ぎたる女の、色黒く髪赤く、子持ちが母の恥づかしく」、また、打ち返し思ふやう、「いかに我が姿美しければとて、人の夫を取るものか。あら恨めしや。情けなや」と守りゐたる折節に、かの女房の乳母桐壺を召して、「何とやらん。いつよりも今宵は心すごく、殿の御事のみ思はるるぞや。あはれはれ、とく御下りあれかし。さらぬだに、一人寝覚めの暁は物の寂しきもの」と語りて、かくなん、

B 山鳥の尾の上の雲を隔てても心は君に添はぬ間ぞなき
など、打ち詠じておはしけり。

「はや、殿もこのほどに御下り時になりて候ふ。また、内の上様、呪ひ事始まりて候ふぞ。さては、いつよりも胸騒ぎして物恐ろしきぞや。いかに桐壺、何とやらん。今宵は寂しく、殿の御事ばかり思ひ出づるぞや」桐壺この由を聞き、申すやう、「はや殿様も御下りあり時になりて候ふ。いかに、御下り候はば、いつもよりもなほ、様々の御情けどものましますらん」と語りける。

元の女房、これを聞き、なほも腹や立ちけん。「あら、腹立ちや。いで、取つて行かん」と言ひて、間の障子を跳ね破り、内に乱れ入りければ、慌て騒ぎ、これを見れば、顔は鬼とやらん、眼にも見ず、音にこそ聞け。「恐ろしな」と言ふもなほ疎かなり。肝魂も消え果てて、絶え絶えとなるところを詰め、叩きに叩けば、「恐ろし」と言ひ、また「打たるる」と言ひ、「一方ならぬ苦しみに、いまだいと若き女房なれば、たちまちに殺されてけり。」「今

⑦ 無念散じたれ。桐壺は居ぬか」と尋ねければ「恐ろしや。鬼よ」とて、呼ばりて逃げ去りぬ。

(『磯崎』より)

注1 本領相違して…期待に相違して、父祖伝来の領地の支配権を保障してもらえなくての意。

注2 四智円明…迷いを断ずる四種の知恵。

注3 貧賤の知音…貧しい時を共に過ごした友。

注4 糟糠の妻…貧しい時から共に過ごしてきた妻。

注5 計会の時…やりくりがつかず困窮した時。

11

問一

傍線部①「かかる振る舞ひ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 大切な鏡を売ってしまったこと。
- ② 堀外に新しい家を造ったこと。
- ③ 本領安堵が叶わなかったこと。
- ④ 鎌倉から帰ってこなかったこと。
- ⑤ 別の女性を連れて帰ってきたこと。

12

問二

傍線部②「在原業平」は、ある作品の主人公のモデルとして知られている。その作品名として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 大和物語
- ② 宇津保物語
- ③ 平中物語
- ④ 伊勢物語
- ⑤ 狭衣物語

13

問三

傍線部③「身や姿こそ変はるとも心は劣り候ふべきか」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 年を重ねて姿かたちが変わったとしても、あなたへの気持ちが変わることなどないのです。
- ② 光源氏や業平とは身分や姿が違うとはいえ、その心ばえに劣ることはありませんしうか。
- ③ 出家をしたからといって、新殿への気持ちが変わることなどないのです。
- ④ 光源氏と業平は身分や姿が違うといっても、いずれの振る舞いにも劣ったところなどありませんしうか。
- ⑤ あなたと新殿は姿かたちは異なれど、どちらも私にとって大切なですよ。

- 14 問四 傍線部ア「提子」・イ「猿楽」の読みは何か。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ア＝ちようし イ＝えんらく
② ア＝ひさげ イ＝さるがく
③ ア＝きゆうす イ＝えんらく
④ ア＝みす イ＝さるがく
⑤ ア＝ていし イ＝えんらく

- 15 問五 和歌 A と B は、それぞれ誰によって詠まれているか。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① A＝紀有常の女 B＝女房(本妻)
② A＝磯崎殿 B＝新殿
③ A＝紀有常の女 B＝桐壺
④ A＝磯崎殿 B＝女房(本妻)
⑤ A＝紀有常の女 B＝新殿

- 16 問六 傍線部④「女の心のはかなさは、さらに打ち置く心の暇もなく」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 本妻はどうしようもない虚しさで、夫の言葉をそのまま素直に受け入れられるはずもなく
② 新殿が一人残される寂しさを思うと、鎌倉に残しておくことなどできなくて
③ 本妻の新殿と自分への冷淡な対応を、そのまま許せるような心の余裕はなくて
④ 新殿との別れのつらさを思うと、そのまま本妻を家に留めておくこともできなくて
⑤ 本妻の頼りにならない未熟な心を、ありのままに受け入れることなどできなくて

17

問七 傍線部⑤「脅すべき子」とあるが誰を指すか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 蔵一太夫

② 桐壺

③ 新殿

④ 紀有常の女

⑤ 磯崎殿

18

問八 傍線部ウ「ためらひけり」・エ「逃げ去りぬ」の動作の主体は誰か。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① ウ∥新殿 エ∥桐壺

② ウ∥新殿 エ∥新殿

③ ウ∥女房(本妻) エ∥桐壺

④ ウ∥女房(本妻) エ∥新殿

⑤ ウ∥蔵一太夫 エ∥桐壺

19

問九 傍線部⑥「心なき人」とはどのような人のことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 思いやりのない人

② 情趣がわからない人

③ 美しくない人

④ 物思いにふけている人

⑤ 無関心な人

20

問十 空欄

⑦

に入る助詞として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① なむ

② か

③ ぞ

④ や

⑤ こそ

三

次のⅠの文とⅡの詩を読み、後の設問に答えなさい。（なお、設問との関係から原文を改めたり訓点を省略したりした箇所がある。また、設問中に問題文を引いた箇所の訓点もすべて省いてある。）

Ⅰ

劉伶字伯倫、沛國人也。身長六尺、容貌甚陋。放情肆志、常以下細宇宙。齊萬物為心。澹然少言、不妄交游、与阮籍・嵇康相遇、欣然神解、携手入林。初不以家產有無介意。常乘鹿車、携一壺酒、使人荷鍤而隨之、謂曰「死便埋我。」其遺形骸如此。

嘗渴甚、求酒於其妻。妻捐酒毀器、涕泣諫曰「君酒太過、非攝生之道、必宜斷之。」伶曰「善、吾不能自禁、惟當祝鬼神自誓耳。便可具酒肉。」妻從之。伶跪祝曰「天生劉伶、以酒為名。一飲一斛、五斗解醒。婦兒之言、慎不可聽。」仍引酒御肉、隗然復醉。嘗醉与俗人相忤、其人攘袂奮拳而往。伶徐曰「鷄肋不足_三以安_二尊拳。」其人笑而止。

（『晋書』による）

II

小兒

蘇軾そしよく

小兒不レ識シラ愁ヒラ

起タテバ坐ヨリ牽ヒク我ガ衣ヲ

我スレバ欲レ嘖イカ嗔ラント小兒ヲ

④ 老妻勸ム兒ノ痴ナルヲ

兒ハ痴ナルモ君ハ更ニ甚ダシ

不レ樂シマ愁ヒテ何ニ為ヰ

X 還リテ坐ニ愧ハヅ此ノ言ニ

Y 洗ヒテ盞さかづきヲ當ツ我ガ前ニ

大勝劉伶婦、

⑤ 區區トシテ為ニ酒錢ニ

(Iの注) ○沛国〓郡国の名。現在の江蘇省、安徽省の一部を管轄した。 ○六尺〓当時の一尺は約二十四センチ。 ○宇宙〓天地。世界。

○澹黙〓無欲で物静かなこと。 ○神解〓言葉を介さずとも気持ちを理解すること。 ○鹿車〓小さな車。 ○鍤〓土を掘り起こす農具の一種。 ○一斛〓当時の一斛は約二十リットル。 ○五斗〓当時の一斗は約二リットル。 ○醒〓悪酔い。二日酔い。 ○隗然〓

ひどく酔う様子。

(IIの注) ○痴〓物事の是非・善悪が分らない。分別がつかない。 ○盞〓小さな酒杯。

21 問一 波線部A「齊」、B「遺」の読み方(送り仮名も含む)として最も適切な組み合わせを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① A〓ひとしくする B〓おくる
② A〓ととのふ B〓おくる
③ A〓ひとしくする B〓のこす
④ A〓ととのふ B〓わする
⑤ A〓ひとしくする B〓わする

22 問二 阮籍・嵇康ら、老荘思想を尊び、世俗を避けて酒や音楽を楽しみ、清談に耽った隠者仲間を何と呼ぶか。次の中から一つ選び、その番号を

マークしなさい。

- ① 北窓三友
② 商山四皓
③ 竹溪六逸
④ 竹林七賢
⑤ 飲中八仙

23

問三 傍線部①「初不以家産有無介意。」の書き下し文として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 初めより家産の有無を以て意に介せず。
- ② 初め家産を有するを以て無きを意に介せず。
- ③ 初めより家産の有無を以てせずして意に介す。
- ④ 初め家産の有らざるを以て意に介すること無し。
- ⑤ 初めより家産を有するを以て意に介せざること無し。

24

問四 傍線部②「吾不能自禁、惟当祝鬼神自誓耳」の意味として最も適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 自分自身で禁酒できないなら、神に祈っても無駄なことだ。
- ② 禁酒できるかどうか、神に祈って聞いてみよう。
- ③ 自分では禁酒できないから、神に祈って誓いをたてよう。
- ④ 禁酒だけは絶対しないと、もう神に誓ったのだ。
- ⑤ 私が禁酒できないのは、神がご自身で決めたことだからだ。

25

問五 波線部①②③の三つの「為」の読み方(送り仮名も含む)として最も適切な組み合わせを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | |
|---|---------|---------|-----------|
| ① | a 〓らる | b 〓つくらん | c 〓なすに |
| ② | a 〓なさしむ | b 〓なさん | c 〓ためにするに |
| ③ | a 〓ためにす | b 〓すれぞ | c 〓つくるに |
| ④ | a 〓なさしむ | b 〓つくらん | c 〓ためにするに |
| ⑤ | a 〓らる | b 〓すれぞ | c 〓なすに |

26

問六 傍線部③の「鶏肋」は、こ・こ・ではどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 身体が弱く小さいこと
- ② 捨てるには惜しいものにわたりの鶏冠とさか
- ③ 大きな価値のあるもの
- ④ 大きな価値のあるもの
- ⑤ 気が荒く喧嘩けんか早いこと

27

問七 傍線部④「老妻勸児痴」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 子どもに好き勝手させていると妻は私を批判した。
- ② 子どもは聞き分けのないものだと言は私をなだめた。
- ③ 叱れば子どもは聞き分けがなくなると妻は私に説いた。
- ④ 聞き分けのない子どもを叱るように妻は私を促した。
- ⑤ 私の邪魔をしないように妻は子どもに声をかけた。

28

問八 傍線部X「還坐愧此言」、Y「洗盞當我前」はそれぞれ誰の動作か。最も適切な組み合わせを一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① X 小児 Y 我
- ② X 我 Y 小児
- ③ X 老妻 Y 我
- ④ X 我 Y 老妻
- ⑤ X 小児 Y 老妻

29

問九 傍線部⑤「区区」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① まじまじと
- ② こせこせと
- ③ のびのびと
- ④ おろおろと
- ⑤ にこにこ

30

問十 古体詩の説明として正しくないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一句の字数が不揃いになることもある。
- ② 近体詩とは違って句数に決まりはない。
- ③ 韻が途中で変わることがある。
- ④ 近体詩同様原則として句末で韻を踏む。
- ⑤ 近体詩が確立すると作られなくなった。

(以上で問題は終わりです。解答番号 31以降は使用しません。)